

アカテツ科はアジア、アフリカ、アメリカの熱帯に分布し、日本ではあまりなじみのない科である。琉球、小笠原にアカテツ、小笠原にムニンノキがあるほか、琉球、台湾でときにサボジラやカイニットが栽培される。

属の分類は主に雄しべの配列のしかた、種子の附着点の形、花弁の背面にある附属体、仮雄蕊、胚の形などが特徴とされる。属の限界のはっきりしないものが多く、人によってかなり意見が異っている。

熱帯に広く栽培されるサボジラ *Manilkara zapota* は、*Achras zapota* の名が広く用いられている。*Achras* は花弁の背面に附属体がないことが特徴とされていた。Gilly (1943) は花の構造の研究から、花弁の背面に附属体をもつ *Manilkara* との間に、中間形があつて連続することから、同一属とすべきだとした。この見解は現在一般に認められている。金平亮三氏がミクロネシアから新属として報告した *Northiopsis* も、花の構造は *Manilkara* の範囲に入るものである。

アカテツは以前は *Sideroxylon* が使われていた。これは主にアフリカに分布するもので、種子の附着点が円形で、種子の下部に限られているので、現在はアカテツの類からは別属とされている。アカテツ類は Baehni (1942) による、主に南アメリカに分布する *Pouteria* と同一とする見解と、Lam (1925), van Royen (1957) の、主にアジアに分布するものを *Planchonella* として区別する見解とがある。*Pouteria* は種子の附着点は巾が広く、しばしば種子の半ばまで広がり、胚は厚い肥大した子葉をもち、種子の内容の大部分を占め、したがって胚乳はごく僅である。*Planchonella* は種子の附着点は線形で、胚は葉状の子葉をもち、多量の胚乳をもつ。どちらの見解が正しいかは日本では判断のしようがない。Aubréville (1960) は Baehni の *Pouteria* のいくつかの種類を別属にうつしていることなどからすると、現在は *Planchonella* を使っておくほうが、適当のようである。

□Shun-ching Lee: *Forest Botany of China Supplement*. 李順郷: 中国森林植物学続篇。A5, 477 頁, Chinese Forest Association, Taipei (100), Taiwan, China より, 1973 年 11 月発行。\$ 15.00。李氏は 1934 年に *Forest Botany of China* を出版し、それに変種も含めて 1500 種を記載した。その後発表された新しいものを加えて、4073 種におよぶ中国樹木の種、変種を記載したものである。前書と重複するものの記載ははぶいてある。一部の属には検索がつけられている。中国の樹木をすべて記載しようとした努力は大変なものだったと思う。然し種類の検討がなされていないので、すでに常識となっている異名のもも、正名のものと同様に記載を伴ってのせられているので、使用する際にはこの点を注意する必要がある。また記載がやや簡単であり、学名の出典がのせられていないのは研究者にとって不便である。

(山崎 敬)